

## 高倉勝子美術館

登米生まれの画家、高倉勝子（1923–2015）は、その温かく優しい絵画スタイルで広く知られています。特に、伝統的な日本画の技法と材料を現代的なテーマに適用する「日本画」スタイルの作品で有名です。この美術館では、彼女の多才さが展示されており、大きな水墨画から絵本の挿絵に至るまで、さまざまな作品が紹介されています。

高倉は東京の女子美術大学で日本画技法を学び、卒業後は広島に移住しました。1945年、広島に原爆が投下された際、彼女は爆心地から 3 キロの場所に住んでいました。奇跡的に生き延びた高倉は戦後、登米に戻り、学校で子供たちに美術を教えました。彼女の教師としてのキャリアは数十年にわたり、その間も絵画を追求し続けました。

高倉の日本画では、若い女の子や働く女性を暖かい色調と優しい表情で描くことが多いです。これらの大きな作品や、寺院や仏像を平和的に描いた作品は、美術館のメインギャラリーを埋め尽くしています。これらの作品は、広島原爆の恐ろしさとは対照的です。高倉は戦争の記憶に苦しみましたが、地域社会の支援を受けて、原爆体験を反映した自伝的な絵画セットを制作しました。これらの絵画は、別の部屋で展示されています。

高倉はアーティスト声明の中で「奥山育ちの私には、都会風な洗練された作品は一点もない。でも豊かな人情に触れ、大地を耕す。…私の絵の一枚一枚には悠久の流れを物語らせて描いてまいりました」と述べています。